



宮内 保 議員



飼料用米について

問

畜産農家と米農家が、市が構築した飼料用米を地産地消する耕畜連携の仕組みが、非常に良い結果が上がっているのと、とだが、米価が低迷している中、令和4年産の飼料用米の作付け状況は。また、市の補助制度はどのようなものか。

答

令和4年6月現在の飼料用米の作付面積は753・1ヘクタールで、前年度より26%増加している。飼料用米の取組に対する市の補助制度については、転作作物推進事業の補助金として、今年度も1キロ当たり20円の支援を実施する。

プレミアム付商品券に対する市長の考えは

問

昨年7月に新型コロナウイルスの影響による消費衰退に対する経済活性化対策として、30%のプレミアム付商品券を発行したが、販売額、換金額、期限切れ残金の

状況を伺う。

答

昨年度は2万セットを販売し、販売額は2億円、発行金額は2億5870万7千円、未回収金額は129万3千円で、回収率は99・5%。

問

プレミアム付商品券は、旭市民にとって非常に評判がよく、市内の消費喚起を促し、中小企業やサービスの活性化に貢献していると考えますが、この事業に対する市長の考えは。

答

消費税引き上げ時や新型コロナウイルス感染拡大時、今般の世界情勢の不安定化による急激な物価上昇など、その時点での経済状況を捉えて実施してきた経緯もあり、地域経済に大きく寄与できたものと考えている。



その他の質問事項

- コロナの影響による特例貸付
- ヤングケアラーについて
- 洋上風力発電を通じた地域振興

带状疱疹ワクチン費用助成を

問

带状疱疹患者は年々増加傾向で、50代から発症率が高くなり、80歳までに3人に1人が発症すると言われている。带状疱疹の発症及び重症化を防ぐため、一定の年齢層を対象にワクチン接種費用の助成をするべきと考えますが、市の見解は。

答

带状疱疹ワクチンの接種費用は全額自己負担となっており、生ワクチンは7千円から1万円、不活化ワクチンは1回当たり2万円程度かかる。現在、接種費用の助成をしている自治体は県内で1か所だけであり、国・県及び近隣市の動向を見ながら、費用助成について検討していく。

マイナポイント取得促進を

問

マイナンバーカード取得によるマイナポイントの付与は、商業活性化にもつながると期待しているが、普及向上施策として、マイナポイント操作支援窓口

答

新たな窓口設置の予定はないが、現在、市民生活課の窓口前にマイナポイント手続きスポットを設置し、マイナポイント予約申し込み専用のパソコンを2台用意している。



マイナポイントの手続きを支援

預かり保育の拡充を

問

里帰り出産において、上の子の一時預かり保育利用期間は15日間で、預かり可能な園は3か所と聞いている。出産後の心身の回復に静養は必要と考えるが、預かり保育の期間延長と預かり可能な保育園を拡充できないか。

答

利用期間は状況に応じて柔軟に対応している。また、現在すべての公立保育所で一時預かり保育を実施し、そのうち3か所で専用ルームと保育士を設置しており、体制は整っている。



伊藤 春美 議員

